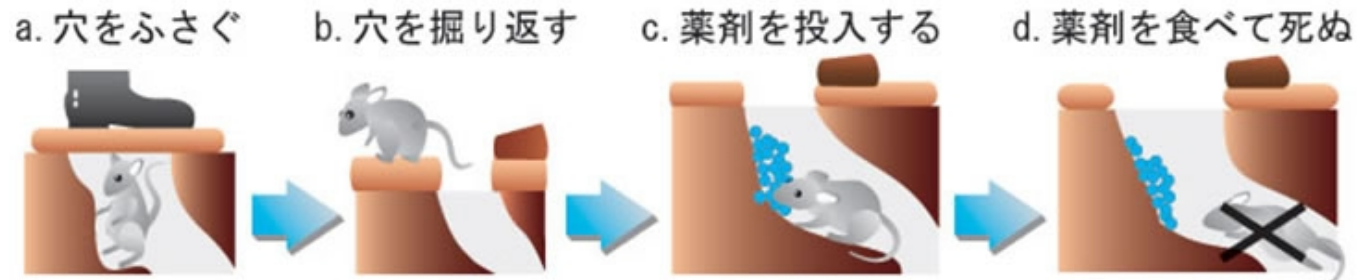


農地周りからのネズミ流入低減調査

1. 鼠穴対処法(効果的な薬剤のまき方)



2. ベイトステーション(餌場法)

- ①農地周りの草地にベイトステーションを設置(10m間隔)
(ネコ餌、作物、ドックフード等を入れ1週間設置・警戒心をなくす)
- ②明らかに餌を捕食しているベイトに殺鼠剤を投入
(投入した殺鼠剤は減れば追加する。)
- ③3晩続けると、消費量が減る(死亡するので)
- ④後から追加した餌が減らなくなれば終了
- ⑤周りからの流入が減り農地内の被害が低減できているか確認(今までの被害状況からの推測)
- ⑥この低減効果がいつまで続くか確認



農地周りからのネズミ流入低減調査試行結果

目的：農地と隣接する自然保護地域から農地に流入するネズミの低減を図ることを目的とする。

1. 実施方法(ベイトステーションによるネズミ被害低減効果の確認)

- ベイトステーション設置前のモニタリング
- 農地周りに10m置きに殺鼠剤入りベイトステーションを設置する。(1ベイトにコップ半分程度の殺鼠剤を挿入)
- ベイトステーションの殺鼠剤が消費している場合、毎日追加し10日間続ける。

2. 実施規模

- 設置前のモニタリングはかご罠により捕獲(父島、母島1ヶ所ずつ)
- ベイトステーションの設置(父島2ヶ所)

3. 試行結果

- 試行前のかご罠によるモニタリングを実施した2ヶ所で1ヶ所平均 匹のネズミが捕獲されたが、それだけでも、捕獲後1月程度は農地内でのネズミ出現がみられなかった。
- 父島の1ヶ所は事前モニタリングなしにベイトステーション法を実施した結果、2ヶ月程度ネズミによる農作物(パイナップル)の被害がなくなった。

* 今回の試行は12月以降に行った結果、農地内にネズミの好む農作物が少ない時期のため、今後、農作物の取れる時期等、四季を通じての検証が必要と思われるが、ベイトステーション及びかご罠の併用は農作物被害低減に非常に効果があるものと思われる。